

銀座で映画「ひまわり」貸切鑑賞会と食事会

映画「ひまわり」の上映が終了し館内に電気が付くと、約半分の人目が腫れぼったいと思った。

7月8日（土）17名が参加して「銀座で映画「ひまわり」貸切鑑賞会と食事会」での一場面である。映画「ひまわり」を観た人全員が、ウクライナの大草原に咲き誇った数十万本のひまわりのシーンを思い出すであろう。しかも、それは何十万人の死者が眠っている土地に咲き、その美しい姿と死者の対比が皮肉にさえ思える。監督はそれを狙ったのかもしれないが、戦争の「光と影」を表しているかもしれない。戦争は多くの犠牲を伴うが、それが一瞬で消えるものではなく、何十年も続くとなるとその悲惨さは倍加してくる。広島、長崎の原爆投下もまさにその通りで、一瞬の爆弾投下が何十年も被爆者を苦しめて来た。今回の映画を通してそれを強く感じた。

会食は近くの新橋亭（新橋）で行われ、各テーブルで映画の感想が語られた。「50年前観た映画より今回の方が泣けた」「子供がいるから自分だったらソ連からイタリアに戻らない」等意外な感想も聞いた。今回の出席者は、同窓生は勿論の事、その奥さん、知人等普段お目に掛かれない方も多く参加され、同窓生の家での生活ぶりが垣間見られ、意外な面を知ることが出来た。

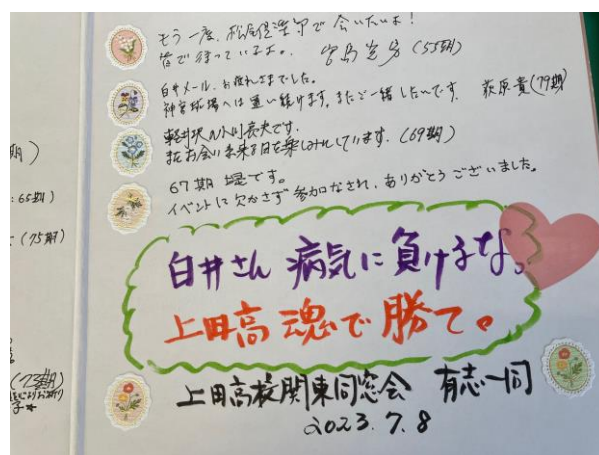
席上、幹事の発案で現在病気治療中の白井透さん（60期）宛に励ましの色紙を書き、皆で激励する事にした。特に、清水健一さん（63期）は白井さんに送るために、白井さんが軽井沢から上田に電車通学した時車窓から見える「浅間山とすすき」のフォトペイントを事前に作成し皆に披露した。その出来栄は見事であり、「多数のすすきの内の一本は白井さん」と言う説明があった。

ところが、何とその翌日に白井さんが逝去されたと聞き驚愕し一瞬言葉を失った。まさか皆で色紙を書いた翌日亡くなるとは。しかし、よく考えてみると、亡くなる前日皆で白井さんを思い病気快復を願った事は我々にとって救いとなった。その時の色紙と清水さんのフォトペイントを載せておきます。

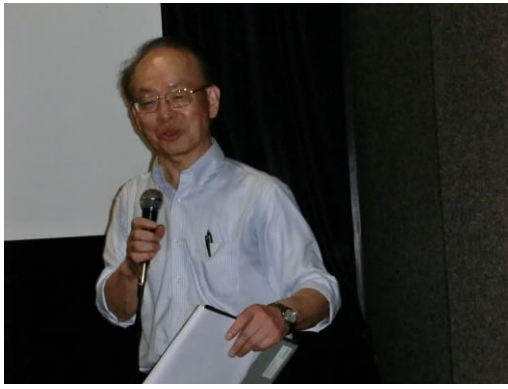
会員交流委員会 古畑克巳（69期）幹事



清水さんのフォトペイント
「浅間山とすすき」



白井さんへの色紙



映写前の幹事 古畑さん



映画評論家 荒木久文さんによる映画導入解説



淀川長治を気取って貸切鑑賞



新橋新橋亭に移動



603号室を貸し切り



食事会後の集合写真